

5 土地利用計画

1 土地利用の現況

立地を活かして各産業が発展してきました

東浦町は、J R武豊線と国道366号に沿って、町の東側を南北に市街地が広がり発展してきました。名古屋市の中心部から約30km圏内という通勤や通学に便利な立地から、J R武豊線及び名鉄河和線沿線では、公共・民間による大規模な住宅地が整備され、市街地が拡大しました。

また、町南部の衣浦湾沿岸での工業団地の開発に始まり、町中央部及び町北部にも工業団地が形成されました。自動車関連産業を中心に、本町の産業を支える企業が立地しています。

農地も整備され、丘陵部を中心にブドウ栽培が盛んとなっています。住民の憩いの場として於大公園や自然環境学習の森が整備され、緑との調和も図りながらまちを形成してきました。

2 将来展望

まちの活気を高め、持続可能なまちづくりをすすめます

人口減少社会の中、生活に必要なまちの機能はコンパクトに集約しつつ、今後の土地利用計画を通じてまちの活気を高めていきます。経済活動や日常生活は東浦町の中だけで完結するものではありません。周辺市町とのアクセスの向上につながる、国や愛知県の計画等を踏まえ、町の土地利用を対応させていくことが重要です。

製造業の集積地である西三河と繋がる、東西のアクセスを強化する幹線道路の整備により、産業・経済活動の活性化を図ります。また、南北のアクセスを強化する幹線道路の整備により名古屋市中心部への利便性を高めます。同時に東西・南北のネットワーク化により、町内の移動の利便性も高めます。

町の北部ではあいち健康の森とその周辺の地域を「ウェルネスバレー」として称し、健康づくり、健康、医療、福祉、介護分野など新産業分野の集積地を目指します。

また、各産業の発展とともに、住民の憩いの空間となる緑との調和を図りながら、暮らしやすいまちとしての住宅地形成を計画的に進めます。

人口減少に比例して経済活動が縮小しないよう、産業振興や経済活動の活性化に効果的な土地利用を行い、まちの活気を高める持続可能なまちづくりを進めます。

3 目的別土地利用

(1) 住宅系土地利用

利便性の高い住まいのあるまちに

既成市街地内の低・未利用地や空き家等の既存ストックの有効活用を図るとともに、計画的な住宅地の整備を幹線道路や生活道路の整備とともに推進します。また、日常生活に必要なまちの機能が住まいの身近なところに集まり、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めていくとともに、緑や景観と調和した住みやすい住環境をつくります。

(2) 商業系土地利用

賑わいがあふれる便利なまちに

鉄道駅周辺を中心に商業集積を図り、町内に住んでいる人、町外から訪れた人が便利に楽しむことができる商業地を形成します。大型商業施設や既存の商店街のバランスも勘案しつつ、ニーズに応じた魅力あるまちづくりに努めます。

(3) 工業系土地利用

新たな企業を受け入れるまちに

名古屋市や中部国際空港に近い立地や将来想定される（仮称）西三河知多アクセス道路の整備などの利便性を活かし、新たな企業を誘致します。また、開発にあたっては周辺環境との調和を図り計画的に進めるとともに、近隣市町への広域的な交通利便性を高める都市計画道路の整備をすすめます。

(4) 新産業系土地利用

健康な生活ができるまちに

あいち健康の森とその周辺をウェルネスバレーと称し、この地区で健康長寿の一大拠点を目指すウェルネスバレー構想を引き続き進めていきます。この地区が健康や福祉などの拠点となるよう用地の整備を進め、新たな医療機関や健康長寿関連分野などの企業を誘致します。

(5) 農業系・樹林地土地利用

緑や景観と調和のとれたまちに

農地を集積、集約化し、農業の効率化を図り、農地の持つ景観や防災、環境保全などの多面的機能の維持、増進を図ります。

東浦町の魅力である緑豊かな環境を保全し、自然や景観と調和したまちづくりを進め、東浦町に住む人や町外から訪れた人が楽しむことのできるレクリエーション空間としても活用します。

4 土地利用構想図

土地利用構想図

